

人が繋がる場をつくる！「旭川市 学びカフェ in わんぱくフェスティバル」

旭川市 上川管内

【関係する団体】

旭川 NPO サポートセンター



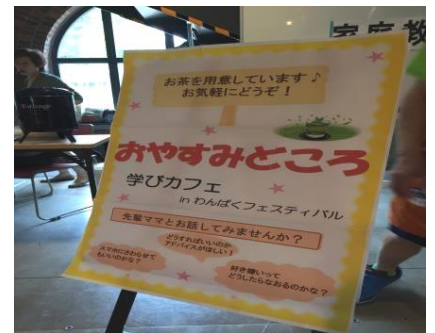
保護者と家庭教育ナビゲーターが交流する様子

1 活動の概要

- 日時
平成 29 年 8 月 24 日（木）
- 場所
旭川市民交流活動センター「CoCoDe」
- 参加者
家庭教育ナビゲーター 5 名
「学びカフェ」ブース利用者 20 名
イベント来場者 250 名
- ねらい
イベントの一部として「学びカフェ」ブースを設置することで、家庭教育講座等のイベントに参加する機会の少ない保護者へのアプローチを行い、家庭教育ナビゲーターとの交流の場とする。
- 活動の形態
イベント会場の一部に「学びカフェブース」を設置し、旭川市内で養成した家庭教育ナビゲーターと連携しながら運営する中で、イベント来場者との交流や悩み相談、情報提供を行う。

2 実施上の工夫

- 子育て中の保護者が多く集まる場で、積極的に家庭教育支援事業等のイベントに参加する機会の少ない保護者へのアプローチを行った。
- 保護者と交流を行う際のツールとして、クイズ形式の情報提供資料を用いた。
- 気軽に立ち寄りことのできるよう、「悩み・不安の相談」というワードを掲示物に使わず、休憩スペースとしてナビゲーターと何気ない世間話をする雰囲気づくりを心がけ、結果として、訪問者の悩み・不安が解消されるよう工夫した。



学びカフェブースの案内掲示

3 活動の成果

- 家庭教育に関わる相談が主目的ではないイベントで実施したことで、積極的に子育て悩み相談や家庭教育支援事業に参加する機会の少ない保護者との交流の場とすることができた。
- 事業を運営するのではなく、イベントのブースとして「学びカフェ」を実践したことで、家庭教育ナビゲーター自身が、「気軽な相談者」という役割について理解を深めることができた。

4 活動の課題

- 「わんぱくフェスティバル」以外のイベントでも、今回のような形で学びカフェを実施するため、子育て担当部署と連携し、交流の場の機会提供をすすめていく必要がある。
- 「家庭教育支援」としてしまうと抵抗感を覚えてしまう保護者がいるため、飲み物を準備したり、オープンなスペースにしたり等、保護者が立ち寄りやすい雰囲気場のづくりが必要である。